

2月議会
本会議

最終日 反対討論 わしの恵子議員



2月議会最終日の本会議で、わしの議員は、2兆5124億円に及び一般会計予算に対する反対討論を行いました。
以下にその要旨を紹介します。

国の悪政から県民生活を守る「防波堤」の役割を 2019年度一般会計予算に対する反対討論

「働く貧困層」が史上最多となり、貧困と格差が拡大するばかりで「アベノミクス」は完全に破綻しました。国内の景気は落ち込みの局面に入り、消費税増税の強行は日本経済にとって自殺行為となります。今やるべきは家計を温めることです。愛知県は、国の悪政から、県民の暮らしや福祉・医療・子育て・教育を守る「防波堤」の役割を果たすべきです。しかし、愛知県予算はそういう立場に立っていません。

反対理由の第1は、県民の暮らしと福祉・教育を支えるべき地方自治体としての役割をないがしろにした予算となっていることです。

1点目は、消費税の10%への増税を、県の使用料、手数料に転嫁し値上げをする予算となっていることです。消費税10%増税を県の使用料、手数料に転嫁すべきではありません。

2点目は、国民健康保険料(税)が高すぎることです。最高28億円を出していた県単独の補助金を復活して、国保料の値上げを抑制すべきです。

3点目は、子どもの医療費無料化が11年間拡充されていないことです。子どもの貧困対策を進めている愛知県として、通院・入院とも1

8歳まで拡大すべきです。

4点目は、「教育立県あいち」を掲げながら、少人数学級が充実していません。また、県立高校のエアコン代やトイレトーパー代を保護者負担にしています。少人数学級を拡充するとともに、保護者負担を直ちに公費負担にすべきです。

5点目は、看護職員修学資金貸付金の新規貸し付けを2019年度から廃止することです。看護師確保のためにも、修学資金を復活すべきです。



反対理由の第2は、大型開発優先・大企業応援型の予算となっていることです。

1点目は、土地代を含めて約620億円の国際展示場を建設することです。カジノを含むIRの中核となる国際展示場には賛成できません。

2点目は、採算性からも必要性からも問題のある中部国際空の第二滑走路建設をめざしていること、また、採算性もなく深刻な環境破壊を起こすリニア中央新幹線に関

連して名古屋駅スーパーターミナル化を推進していることです。

反対理由の第3は、産業構造のあり方です。

大村県政は、リニア、ジェットなど大企業優先の大型開発型県政を推進していますが、その一方で、中小企業への施策が後回しにされています。先端技術の特定分野を主とした産業・経済政策ではなく、愛知の産業を支える中小企業全体に目を向けて、中小企業を「経済の根幹」に、農業を「基幹産業」に位置付け、それにふさわしい施策を行うことが必要です。

いま愛知県政に求められているのは、大型開発優先から暮らし・福祉優先へ税金の使い方をきりかえ、県民の切実な要求を実現することです。日本共産党愛知県議団は、県民の健康と暮らし、教育を支え、憲法9条改憲を許さず、平和な社会をめざす愛知県政実現のために頑張り決意を表明して討論とします。

